

6年生国語科学習指導案

日時：平成19年6月5日(火)

場所：6年教室

1, 単元名 筆者の心の動きを読みとる 「森へ」

2, 指導の立場

(1) 教材観

「森へ」は、物語文とも説明文とも言い切れない。筆者自身が自然の中に身をおいて感じたり、考えたりしたことを、写真と文章で構成した作品であり、筆者の目を通して示された森に息づく命が子ども達にも伝わるだろう。

「森へ」は、「生きる力」に訴えかける内容となっている。自然と共生し、命の大切さを知って人間的な豊かさを育てていくことを目指して、この作品の世界を味わわせたい。

子ども達は、「読むこと」領域において6年生の最初の単元「本に親しみ、自分と対話しよう『カレーライス』」では、登場人物の心情を叙述に即して読みとる学習をしてきた。説明文「生き物はつながりの中に」では、筆者が文章を通して読者に考えてもらいたいと思っていることをまとめたり、筆者の考えについて自分はどう考えるかまとめたりする学習をしてきた。

本単元では、優れた情景描写に着目し、前の場面での学習とつなぎながら筆者の心の動きを読み取る力をつける授業をしくみたいと考えている。

(2) 児童観

つけたい力からみた児童の実態は以下のようである。

- A、優れた情景描写に着目し、前の場面での学習とつなぎながら、
筆者の心の動き、さらに筆者の伝えたいことを読み取ることができる。 4人
- B 優れた情景描写に着目し、前の場面での学習とつなぎながら、
筆者の心の動きを読み取ることができる。 8人
- C 優れた情景描写に着目し、筆者の心の動きを読み取ることができる。 8人

いろいろな場で全員挙手にこだわり、一人一人の意見を集めて授業を作りあげることの大切さを語ってきた。クラスの半数は積極的に手を挙げることができ、その雰囲気の中で苦手な児童も手が挙がるようになってきている。たくさんの児童が発表することによって、読み取りの仕方が児童の言葉で広がり、言葉と言葉をつなげて考えたり、前の場面とつなげて考えたりできる児童が少しずつ増えてきた。

また、「書く」時間を確保することで、一人一人に考える足場ができ、じっくり考えることができるようになってきている。

昨年度の学習状況調査では、「主人公の気持ちの変化に注意しながら読むことができる」に関しては県平均を下回っており、本単元の学習のつなぎながら筆者の心の動きを読み取る活動は有効であると考えられる。

本時は、Cの児童が優れた情景描写に着目し、前の場面とつなぎながら筆者の自然に対する心の動きを読み取ることができるようにしたい。